

中部森林管理局・森林整備センター中部整備局連絡会議を開催

〔企画調整課〕中部森林管理局・森林整備センター中部整備局連絡会議が2月25日、名古屋市内において開催されました。

当連絡会議は、民有林・国有林を通じた一体的な林政を展開するため、中部森林管理局と森林総合研究所森林整備センター中部整備局との間で、情報交換や意見調整等を目的に昨年度設置したもので、今回第2回目の開催となりました。

会議の冒頭、森林整備センター中部整備局の丹保業務課長から、「シカ対策やシステム販売について引き続き情報交換等の連携をしていきたい」、中村森林整備部長からは、「伐って植える時期に入り、お互い低コスト化を図っていく必要があります連携して知恵を出し合っていきたい」とのあいさつがありました。

会議では、お互いの事業概要や事業量、今後の苗木需要量、シカ防護柵、素材等生産販売における連携等について情報交換を行い、苗木については「全国的にスギ苗が不足しており情報共有しながら苗木の確保が必要」、「センターではスギの使用量が多く、カラマツも不足気味」、「花粉対策の苗の増産も考えていく必要がある」、「コンテナ苗生産の後継者が増加しているが大量に使っていかないと安価にならない」、シカ対策については、防護柵の設置地域や仕様等について意見交換を行いました。また、国有林と森林整備センター双方の森林が含まれる森林共同施業団地の間伐予定時期や連携したシステム販売に向けた今後の課題等について話し合いました。

今後についても連携した取組を継続して行っていくことを確認し第2回の連絡会議を終了しました。



会議の様子